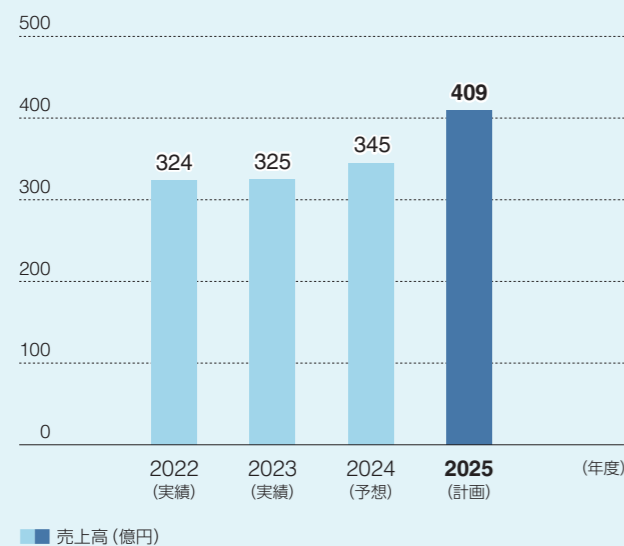


高付加価値製品群の概況

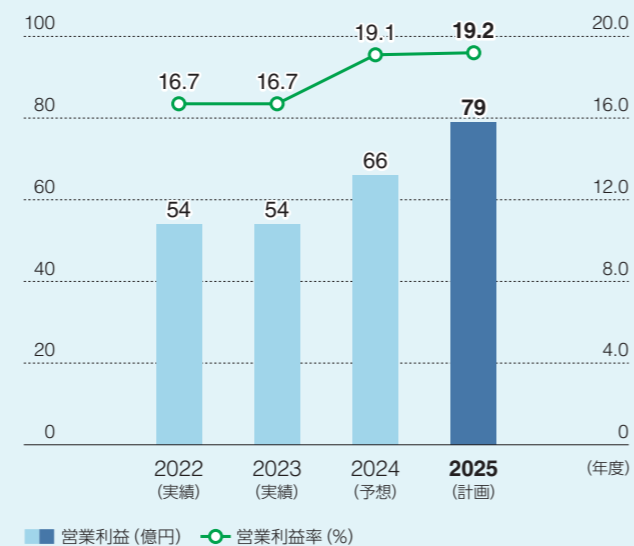
カーボンニュートラルおよびQOLの向上に貢献する、特殊繊維用薬剤、特殊電子部品用薬剤、潤滑油添加剤、永久帯電防止剤、医療・医薬関連製品を高付加価値製品群と位置付け、中計期間を含む2021～2025年度で90億円の設備投資を計画しています。この設備投資による増分営業利益を25億円と見込んでおり、2025年度に営業利益79億円の目標を設定しています。

しかし、電子部品と半導体市場が低調に推移したこと、および中国の内需不振に加え中国製品の供給過剰により日本およびアジアマーケットにおける価格競争が激化するなど、当社の置かれている状況は厳しく、2024年度の営業利益を66億円と予想しています。

▶ 高付加価値製品群の売上高（目標と実績）



▶ 高付加価値製品群の営業利益／営業利益率（目標と実績）



(注) 高付加価値製品群に含まれる固定費は2022年度基準として算出しています。

▶ 高付加価値製品群への設備投資（計画）

分類	製品群	2021	2022	2023	2024	2025 (年度)
CN	特殊繊維用薬剤				鹿島に新設 (2024年／7億円)	
CN	特殊電子部品用薬剤				名古屋に増設 (2023年／4億円、2025年／5億円)	
CN	潤滑油添加剤	中国に増設 (2021年／3億円)、韓国に新設 (2021年／24億円)			鹿島、京都に増設予定 (2025年／8億円)	
QOL	永久帯電防止剤		タイに新設 (2022年／34億円)			
QOL	医療・医薬関連				名古屋に増設 (2024年／1億円)、京都に増設 (2024年／3億円)	

2021～2025年度 総投資額 **90億円**

↓

中計2025期間 増分営業利益 **25億円**

(注) () 内、稼働開始年度／投資額

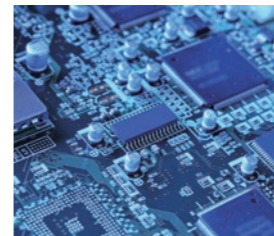
CN (カーボンニュートラル) に貢献



特殊繊維用薬剤

炭素繊維を使用した複合材料は、風力発電、自動車、航空機、圧力容器などのさまざまな用途に実績がありますが、当期の風力発電ブレード用途の炭素繊維については低調に推移し、当社の販売も影響を受けています。

しかし、近年カーボンニュートラルの取り組みが世界中で進む中、風力発電ブレードは、再生可能エネルギーの広がりにより需要が急伸しているため、中長期的には炭素繊維の需要拡大を見込んでおり、2025年度には生産能力を5割程度増強する計画です。



特殊電子部品用薬剤

電子回路などに用いられるアルミ電解コンデンサ用電解液は、業界標準のロングラン製品です。広い温度領域で高い電気伝導率を示し、高温での長期安定性に優れることから、電気自動車 (EV) をはじめとする自動車の運転支援システム回路の制御ユニットなど、高い信頼性が求められるコンデンサに採用されています。

2023年度は、一般消費材向けの不調により売上高は低調に推移したものの、中長期的には需要拡大が予想されるため、生産能力を約3割増強し、今後さらなる増強も計画しています。



潤滑油添加剤

当社の潤滑油添加剤は、ポリメタクリレート (PMA) 系で燃費の向上に寄与します。PMA系では国内シェア1位、海外でも2位のシェアがあり、ガソリン車、ハイブリッド車 (HV)、プラグインハイブリッド車 (PHV) のエンジンオイルに採用されています。また、EVに最適な潤滑油添加剤の開発にも取り組んでいます。

本製品はCO₂削減の世界的潮流による需要増大に対応すべく、日本、韓国の生産拠点で生産能力の増強を検討しています。

QOL に貢献



永久帯電防止剤

永久帯電防止剤は、静電気によるさまざまな障害 (電子回路の破壊、電化製品の誤作動、ホコリの付着) や事故 (火災、爆発) を防止するために、幅広い用途に使用されています。超高度情報化社会の到来により半導体用搬送トレイや電子機器・精密部品の包装などの用途の需要が増えつつありますが、2023年度は半導体業界の在庫調整が継続したことから販売が落ち込みました。

当社は、2022年からタイ子会社のラヨーン工場でも生産を開始し、競争力強化を図るとともに、新たな用途開発を進めていきます。



医療・医薬関連

医薬品用ポリエチレングリコールは、医薬品添加物として軟膏基剤、坐薬基剤、錠剤のコーティング剤、原薬としては腸管洗浄剤などに用いられる他、組織再生、細胞培養などさまざまな用途展開が進んでいます。2024年5月、名古屋工場の生産能力を約2割増強し、今後さらに生産能力を引き上げる計画です。

中心循環系非吸収性局所止血材は、ウレタン素材の外科手術用止血材で、脳血管を除く血管全体の吻合部の止血材として国内の多くの血管外科領域の手術で使用されています。またCEマーキングを取得し、欧州、香港、台湾市場へ参入しています。今後の需要拡大に対応するため、設備増強と生産効率化も進めています (2024年12月稼働予定)。安定した品質と供給力を確立させ、さらなる海外展開を図ります。